

お客様に「笑顔」で接する
 ように心掛けています。バラまつ
 りを楽しみにしています。



宮尾名津美 さん
 【東吉田・23歳】

このコーナーでは、市内で働く元気でフレッシュな皆さんを紹介していきます。
 今回は、大学を卒業後、美容院でアシスタントをしている宮尾名津美さんに、お話しをうかがいました。

◆ どのような仕事をされていますか？
 美容師のアシスタントとエステティックのカウンセリングをしています。

◆ 主に頭、足などのマッサージをしたり、手や足のつめを磨き、形を整えるネイルケアと、つめに装飾を施すネイルアートを行っています。

◆ 今の仕事を選んだ理由は？
 人と接する仕事が好きだったので、美容師かエステティシャンになりたいと思っています。また、大学で臨床心理学を学んだので、仕事に生かしていきたいです。

◆ 休日にはどのように過ごしていますか。趣味はありますか。
 趣味は、高校時代から始めたアーチェリーで、上田市の射場まで足を運び、仲間と楽しんでいます。また、国体に代表選手としていきます。



◆ 中野市にはどのようなイメージを持っていますか。
 のどかで、人間味にあふれていると思います。バラまつりを毎年楽しみにしています。バラまつりのためにプリザーブドバラコサージュを作っています。

◆ 今後の抱負をお願いします。
 いろいろな経験を積んで、人に好かれ信頼される美容師になりたいと思います。また、どんなときも笑顔絶やさず接客に接して行きたいです。



広報クイズ
 ■今月のプレゼント
 月の兔ストラップ
 ……5名

問題
 6月は、「●●月間」です。

クイズの答えと、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、口ごろ感じていただくことを書き添えて、次の宛先まで送付してください。
 締め切り 6月25日(金)必着
 ※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

切手
 383-8614 中野市三好町一丁目
 3番19号
 中野市役所
 庶務課秘書広報係
 住所・氏名・年齢・電話番号

継承 中野が誇る伝統文化

第25回 間山雲井太鼓

間山雲井太鼓とは

間山区の三原組(東部)に伝わる伝統的な奉納太鼓、間山雲井太鼓。かつて、間山豊富神社の秋季大祭に三原組が奉納していた神楽が途絶えていたことから、復活を望んだ同組の人々が自発的に寄付を行い、昭和58年10月9日、勇壮に打ち叩かれた奉納演奏とともに、雲井太鼓の歴史は幕を開けました。

雲井太鼓の名は、雲井嶽の裾野に広がる間山の平和と発展を表現するものにしたという願いを込めて命名されたもので、創作部会の方が間山の歴史や伝説を物語風に執筆した「雲井太鼓物語」を作曲の参考としました。この物語は、間山の移り変わりを「①間山のあけぼの」「②さ



▲シヨンシヨンまつりで演奏する間山雲井太鼓

かえる間山」「③ゆれうごく間山」「④平和な間山」の4章に分かれており、現在もこの4曲を基に演奏しています。

◆ 30代から60代まで24人の会員がいますが、年々高齢化が進み、実際活動している者は少なくなってきました。毎月、第2日曜日と第4金曜日に練習を行い、10月開催の秋季大祭では4年に1度、太鼓を披露していきます。例年「中野ひな市」の大灯籠びな行進のオープニングセレモニーとして太鼓の演奏を披露しているほか、出演依頼があれば市内各地に出向くことも多く、姉妹都市の北茨城市で演奏したこともありです。

◆ 間山雲井太鼓の魅力とは

幅広い年齢層で会員同士が結束し一つにまとまっているところでしょう。単に祭り太鼓として氏神様に奉納するだけでなく、演奏を通じて情操が豊かになり、人々の結びつきを深めてくれる効果も期待できます。非常にやりがいを感じています。皆さんへのメッセージ
 ぜひ一度、勇壮な太鼓の演奏を聴いていただきたいと思います。

市民リレーインタビュー No.33 走者 キャッチボール

鴨井 裕さんから紹介された



杉山 麻友美 さん
 (受付事務・岩船)

①自己紹介
 今年4月、結婚を機に栃木県から引っ越してきました。夫は、信濃グランセローズで投手として活躍しています。
 休日は、家の掃除や片付けなど、家事をして過ごすことが多いですね。
 ②今後チャレンジしたいこと
 ホームヘルパーの資格をとりたいので、これから勉強していきたいです。
 ③これからのまちづくりに望むこと
 まち全体でスポーツの応援に熱中できるような、活気にあふれてまとまりのある、中野市であり続けてほしいと思います。

理学りよう法士になりたい



延徳小学校 6年
 山田 乃愛さん

◆ 私の将来の夢は理学りよう法士の先生になることです。
 どうして理学りよう法士になりたいと思うようになったのか。それは、兄のリハビリと一緒にやった時のことがきっかけになっています。
 一人の先生が兄の所へ来て、「じゃあがんばろう」と言いながら歩く練習をし

ていました。
 そして、兄だけではなく、小学生くらいの人や、中・高生など、いろいろな人が先生とがんばっていました。
 私はそんな姿を見ると心の中で、「がんばれ」と思っていました。
 そして、私もそんな先生になりたいと思いました。
 そして、多くの人の最高の笑顔を見たいです。もちろん、兄の最高の笑顔も見たいです。
 理学りよう法士になってがんばっている人たちの支えになりたいです。

No.62